

社長の経営哲学の構築にお役立ちする

税理士法人 優和

# 経営者への活きた言葉

TEL 03-3455-6666  
FAX 03-3455-7777

## 経営者への活きた言葉

### これからの経済は「分配」が中核となる 宮内 義彦（オリックスシニアチェアマン）

1. 平成は、ものすごく変化に満ちた時代でした。まず、平成になってすぐの1989年に冷戦が終わり、ほどなくして日本のバブル経済が崩壊しました。モノづくりの拠点が日本から中国をはじめ新興国へ移り、それまでの「世界の工場」として発展してきた日本の仕組みが変わり始めたのもこの頃です。
2. 世界の市場に打って出たイノベティブな経営が、あっという間にコストカット経営になってしまいました。トップライン（売上高）を上げようとせず、経費をカットして何とかつじつまを合わせようとする。非常に後ろ向きな経営です。リストラこそ経営であるというマインドが、今日に至るまで続いてしまっています。
3. これからの経済は、いかに成果を伸ばしていくかよりも、その成果をどう分け合うか、いわゆる分配が焦点になるかもしれません。テクノロジーが進化し、今後AI（人工知能）やロボットが働くようになれば、生産などの経済活動は勝手にやってくれます。となると一層、分配が経済の中核を占めるようになるわけです。（参考：「日経ビジネス」2019年1月28日号）

### 経営者のための危機管理

#### 日本の低生産性の要因（モンスタークレマー）

1. いま世の中には、モンスター化したクレマーや社員が急増している。モンスタークレマーによる迷惑行為の中身を見ると、最も多いのは「暴言」「脅迫」で、「何回も同じクレーム」「説教」も相当数に上っている。モンスター化した客や社員への対処は、企業にとって死活問題なのだ。さらに、モンスタークレマーは、日本の労働生産性の足かせとなっている可能性がある。
2. 日本の生産性が低水準にとどまっているのは、サービス業の生産性が低いからだ。それは日本のサービス業が、「お客様は神様」「安いのはいいこと」という二つの価値観を信奉するあまり、価格に見合わない過剰サービスを提供し続けてきたことに起因している。

（参考：「週刊ダイヤモンド」：2019年2月16日号）

### 経営者のための理念・哲学

#### 勤労観について 田口佳史（東洋思想家）

1. 悟りに至る道を歩むことが「道」の意味です。だから、茶道というのは、うまいお茶をあてることが目的ではなく、茶の湯を通じて悟りに至ることを目指している。では悟りとは一体何か。覚悟という字が「悟りを覚える」と書くように、悟りとは覚悟を決めることです。
2. 覚悟を決めた時に悟りに至るのであり、そこに至るまでの過程が修行である。では修行と単なる作業はどこが違うのかというと、道元は「一つひとつ丁寧に、心を込めて」、それだけだと。毎日毎日、自分の所作を丁寧に、心を込めて、一所懸命磨いていく。これが日本人の勤労観です。その根底には敬と愛、つまり天が人間に愛を施し、それに対して人間は天を敬う。こういう思想があるわけです。

（参考：「致知」2019年3月号）

## 古典に学ぶ

### 真の英雄豪傑

（解説）史乘などに見ゆるところの英雄豪傑には、とかく智情意の三者の<sup>けんこう</sup>権衡を失した者が多いようである。すなわち意志が非常に強かったけれども智識が足りなかったとか、意志と智恵とは揃っていたが、情愛に乏しかったとかいうごとき性格は、かれらの間にはいくらもいた。かくのごときものはいかに英雄で豪傑でも常識的の人とは言われない。

（参考：洪沢栄一「論語と算盤」：国書刊行会）